

安全データシート（SDS）

整理番号：DS0007-0255

作成日：2026/02/02

<供給者情報>

供給者：三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社

住 所：愛知県名古屋市東区大幸南1丁目1番9号

電 話：下記番号までご連絡ください。

| 機種 | 担当部門 | 電話番号 |
|---------------|----------|--------------|
| 放電加工機 | E D M事業部 | 052-719-7121 |
| レーザ加工機 | レーザ事業部 | 052-719-7980 |
| 数値制御装置（C N C） | N C事業部 | 052-722-4076 |

<製品名>

ボンドクイック5

<特記>

本製品には2種類の化学品が使用されています。

- ・ボンド クイック5 A剤
- ・ボンド クイック5 B剤

安全データシート

1. 化学品及び供給者情報

化学品の名称

ボンド クイック5 A剤

製品コード

171467Akatei

供給者の会社名称

三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社

住所

愛知県名古屋市中区大幸南1丁目1番9号

担当部門

E DM事業部

緊急連絡電話番号

052-719-7121

推奨用途及び使用上の制限

金属、木、硬質プラスチック、陶磁器製のスピード接着と下記材料製品の補修。アクセサリや模型の製作、補修。家具、置物の補修。電化製品、日用品の補修。スポーツレジャー用品の修理。所定の用途以外には使用しないこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分外

自然発火性液体 区分外

自己発熱性化学品 区分外

水反応可燃性化学品 区分外

酸化性液体 区分外

健康有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2B

皮膚感作性 区分1

吸引性呼吸器有害性 区分外

環境有害性

水生環境有害性（急性） 区分1

水生環境有害性（長期間） 区分1

上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H315+H320 皮膚及び眼刺激

H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

H410 長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性

注意書き

安全対策

取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)

取扱い後はよく眼を洗うこと。(P264)

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。(P272)

環境への放出を避けること。(P273)

保護手袋を着用すること。(P280)

応急措置

皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸

で洗うこと。(P302+P352)

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)

特別な処置が必要である。(P321)

廃棄

皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。(P332+P313)
 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
 (P333+P313)
 眼の刺激が続く場合、医師の診断、手当てを受けること。(P337+P313)
 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)
 漏出物は回収すること。(P391)
 内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
 化学名又は一般名

混合物
 エポキシ樹脂系接着剤 主剤

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|--|----------|-----|----------|-------|------------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| 4, 4' -イソプロピリデンジフェノールと1-クロロ-2, 3-エポキシプロパン重縮合物（ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂） | 非公開 | — | (7)-1283 | — | 25068-38-6 |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
 多量の水と石鹸で洗うこと。
 直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
 直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
 直ちに医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

救助者は必要に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。

特有の危険有害性

引火性、可燃性物質。

特有の消火方法

ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。
 漏洩場所を換気する。
 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
 作業者は適切な保護具（『8. 暴露防止及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。

環境に対する注意事項

環境中に放出してはならない。
 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。
 希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。
 危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。
すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。床面に残るとする可能性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-----------|--|
| 取扱い | 本品は、皮膚障害の恐れがあるため、以下の取扱い事項を厳守すること。 |
| 技術的対策 | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 |
| 安全取扱注意事項 | 換気の良い場所で取り扱うこと。 眼、皮膚又は衣類に付けないこと。 取扱い後はよく手を洗いうがいをする。火気注意。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 主剤／硬化剤を多量に混合すると発熱し、アミン蒸気等が出ることもある。 |
| 接触回避 | 『10. 安定性及び反応性』を参照。 |
| 衛生対策 | 取扱い後はよく手を洗うこと。 |
| 保管 | |
| 安全な保管条件 | 特別に技術的対策は必要としない。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 保管温度：2～40℃ 日光から遮断すること。 容器を密閉して保管すること。 |
| 安全な容器包装材料 | 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 |

8. ばく露防止及び保護措置

| | 管理濃度 | 許容濃度（産衛学会） | 許容濃度（ACGIH） |
|-------------------|------|------------|-------------|
| ビスフェノールA型液状エポキシ樹脂 | — | — | — |

| | |
|---------|---|
| 設備対策 | 換気をしながらご使用ください。 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | 情報なし |
| 手の保護具 | 保護手袋を着用すること。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|--------------|-----------------------------|
| 外観 | |
| 物理的状态 | 液体 |
| 形状 | ペースト状 |
| 色 | 淡黄白色 |
| 臭い | わずかにあり |
| pH | データなし |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | 情報なし |
| 引火点 | 276℃（セタ密閉式） |
| 燃焼又は爆発範囲 | |
| 下限 | データなし |
| 上限 | データなし |
| 比重（密度） | 1.15±0.05 g/cm ³ |
| 溶解度 | 水に不溶 |
| 自然発火温度 | 情報なし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|-------------------------------------|
| 反応性 | 硬化剤と反応する。 |
| 化学的安定性 | 通常の条件下では安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | 硬化剤とされる物以外とは反応しにくい。 |
| 避けるべき条件 | データなし |
| 混触危険物質 | 硬化剤類および酸化性物質、その他一般的な混触禁止物質との混触を避ける。 |
| 危険有害な分解生成物 | 燃焼などによりCO等の有害ガスを発生する恐れがある。 |

11. 有害性情報

| | |
|-------------------|---|
| 急性毒性 | |
| 経口 | 分類結果は急性毒性（経口）－区分外となるが、分類できない成分が1%以上5%未満含まれるため急性毒性（経口）－分類できないとした。 |
| 経皮 | データなしのため急性毒性（経皮）－分類できないとした。 |
| 吸入 | データなしのため急性毒性（吸入：蒸気）－分類できないとした。 粉じん、ミストによる健康への有害性は判断できないため急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）－分類できないとした。 |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | 混合物の成分の皮膚腐食性及び皮膚刺激性－区分2の濃度合計が10%以上のため皮膚腐食性及び皮膚刺激性－区分2とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 混合物の成分の眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性－区分2Bの濃度が10%以上のため眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性－区分2Bとした。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | データなしのため呼吸器感作性－分類できないとした。 混合物の成分の皮膚感作性－区分1の濃度がカットオフ値以上のため皮膚感作性－区分1とした。 |
| 生殖細胞変異原性 | 分類結果は生殖細胞変異原性－区分外となるが、分類できない成分が1%以上5%未満含まれるため生殖細胞変異原性－分類できないとした。 |
| 発がん性 | データなしのため発がん性－分類できないとした。 |
| 生殖毒性 | 分類結果は生殖毒性－区分外となるが、分類できない成分が1%以上5%未満含まれるため生殖毒性－分類できないとした。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | データなしのため特定標的臓器毒性（単回ばく露）－分類できないとした。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | データなしのため特定標的臓器毒性（単回ばく露）－分類できないとした。 |
| 吸引性呼吸器有害性 | 40℃動粘性率が20.5mm ² /sより大きいいため吸引性呼吸器有害性－区分外とした。 |

12. 環境影響情報

| | |
|--------------|--|
| 水生環境有害性（急性） | 混合物の成分の水生環境有害性（急性）－区分1X毒性乗率の濃度合計が25%以上のため水生環境有害性（急性）－区分1とした。 |
| 水生環境有害性（長期間） | 混合物の成分の水生環境有害性（長期間）－区分1X毒性乗率の濃度合計が25%以上のため水生環境有害性（長期間）－区分1とした。 |
| 生態毒性 | 情報なし |
| オゾン層への有害性 | データなし |

13. 廃棄上の注意

| | |
|----------|--|
| 残余廃棄物 | 廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 内容物を使いきってから一般廃棄物として処理する。 押し出した内容物の硬化・乾燥物は普通ゴミ・可燃物（プラスチック・ゴム）として処理する。 |
| 汚染容器及び包装 | チューブや少容量プラスチック容器製品で一般廃棄物とする場合は次のように分別し、回収または廃棄処分する。 普通ゴミ・可燃物（紙類、プラスチック・ゴム） 普通ゴミ・不燃物（金属、ガラス・陶磁器） 普通ゴミ・不燃物（雑物） |

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

| | |
|---|---|
| UN No. | 3082 |
| Proper Shipping Name | ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. |
| Class | 9 |
| Packing Group | III |
| Marine Pollutant | Applicable |
| Transport in bulk according to MARPOL 73/78, Annex II, and the IBC code | Not applicable |

航空規制情報

| | |
|----------------------|---|
| UN No. | 3082 |
| Proper Shipping Name | ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. |
| Class | 9 |
| Packing Group | III |

国内規制

陸上規制

消防法、労働安全衛生法、毒物劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

国連番号

3082

品名

環境有害物質（液体）

国連分類

9

容器等級

III

海洋汚染物質

該当

MARPOL 73/78 附属書II 及びIBC コードによるばら積み輸送される液体物質

非該当

航空規制情報

航空法の規定に従う。

国連番号

3082

品名

環境有害物質（液体）

国連分類

9

等級

III

特別の安全対策

『7. 取扱い及び保管上の注意』の記載に従うこと。
容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。

緊急時応急措置指針番号

171

15. 適用法令

労働安全衛生法

変異原性が認められた既存化学物質（法第57条の5、労働基準局長通達）

消防法

指定可燃物、可燃性固体類

外国為替及び外国貿易法

輸出貿易管理令別表第1の16の項

船舶安全法

有害性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）

航空法

その他の有害物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）

労働基準法

感作性を有するもの（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4号、平8労基局長通達、基発第182号）

16. その他の情報

連絡先

『1. 化学物質等及び会社情報』に記載。

参考文献

J I S Z 7252-2014 GHSに基づく化学物質等の分類方法
J I S Z 7253-2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート（SDS）
経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス（平成25年7月）
一般社団法人 日本化学工業協会GHS対応ガイドライン（2012年）

その他

6月)

日本ケミカルデータベース(株)SDS作成システム「ロジスト」により作成。

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

以前にお渡しした本製品の安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。

法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。

SDSの伝達の経路：安全データシート（SDS）は原則として次の経路で最終取扱事業者様へ伝達されます。恐れ入りますが、未入手の場合のSDSの御請求や最新版の問い合わせは、販売ルートを通じてお申し出下さい。【メーカー⇒代理店⇒取扱い事業者】

前版からの変更点

「9. 物理的及び化学的性質」に変更があります

安全データシート

1. 化学品及び供給者情報

| | |
|----------|-------------------------|
| 化学品の名称 | ボンド クイック5 B剤 |
| 製品コード | 171467Bkatei |
| 供給者の会社名称 | 三菱電機メカトロニクスエンジニアリング株式会社 |
| 住所 | 愛知県名古屋市中区大幸南1丁目1番9号 |
| 担当部門 | E DM事業部 |
| 緊急連絡電話番号 | 052-719-7121 |

推奨用途及び使用上の制限

金属、木、硬質プラスチック、陶磁器製のスピード接着と下記材料製品の補修。アクセサリや模型の製作、補修。家具、置物の補修。電化製品、日用品の補修。スポーツレジャー用品の修理。所定の用途以外には使用しないこと。

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

引火性液体 区分外
自然発火性液体 区分外
自己発熱性化学品 区分外
水反応可燃性化学品 区分外
酸化性液体 区分外

健康有害性

急性毒性（経口） 区分4
急性毒性（経皮） 区分4
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分1
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分1
吸引性呼吸器有害性 区分外
上記で記載がない危険有害性は、分類対象外か分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

H302+H312 飲み込んだり、皮膚に接触すると有害
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷

注意書き

安全対策

ミストを吸入しないこと。(P260)
取扱い後はよく手を洗うこと。(P264)
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。(P270)
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。(P280)
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯すること。(P362+P364)
飲み込んだ場合、口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
(P301+P330+P331)
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。(P302+P352)
皮膚又は髪に付着した場合、直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぎ又は取り除くこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。(P303+P361+P353)
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。(P304+P340)

応急措置

保管
廃棄

眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。(P305+P351+P338)
直ちに医師に連絡すること。(P310)
気分が悪い時は、医師に連絡すること。(P312)
特別な処置が必要である。(P321)
施錠して保管すること。(P405)
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。(P501)

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
化学名又は一般名

混合物
エポキシ樹脂系接着剤 硬化剤

| 化学名又は一般名 | 濃度又は濃度範囲 | 化学式 | 官報公示整理番号 | | CAS番号 |
|---------------------|----------|------------------|----------|-------|-----------|
| | | | 化審法番号 | 安衛法番号 | |
| ポリチオール（硬化剤としての名称） | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 非公開 |
| ポリアミドアミン（硬化剤としての名称） | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 非公開 |
| シリカ | 1～5% | SiO ₂ | (1)-548 | — | 7631-86-9 |
| 三級アミン（硬化剤としての名称） | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 非公開 | 非公開 |

分類に寄与する不純物及び安定化添加物 情報なし

労働安全衛生法

名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）

シリカ（法令指定番号：312）（5%未満）

4. 応急措置

吸入した場合

空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
気分が悪い時は、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

直ちに汚染された衣類をすべて脱ぎ、皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。
多量の水と石鹸で洗うこと。
直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合

水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
直ちに医師に連絡すること。

飲み込んだ場合

口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
直ちに医師に連絡すること。

応急措置をする者の保護

救助者は必要に応じて適切な保護具を着用する。

5. 火災時の措置

消火剤

粉末消火剤、二酸化炭素、水噴霧、砂、一般の泡消火剤。

特有の危険有害性

引火性、可燃性物質。

特有の消火方法

ガスの滞留しない場所で風上より消火し、漏洩防止処置を施す。

消火を行う者の保護

消火作業の際は、空気呼吸器を含め防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

危険な現場を分離して無関係者及び保護具未着用者の出入りを禁止する。
漏洩場所を換気する。
漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。
作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参

| | |
|-----------------|--|
| 環境に対する注意事項 | 照)を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。 環境中に放出してはならない。 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 希釈水は汚染を引き起こすおそれがある。 |
| 封じ込め及び浄化の方法及び機材 | 漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地する。 危険でなければ漏れを止める。 少量の場合、乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いて回収する。 すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 床面に残るとする可能性があるため、こまめに処理する。 |
| 二次災害の防止策 | |

7. 取扱い及び保管上の注意

| | |
|-----------|---|
| 取扱い | 本品は、皮膚障害の恐れがあるため、以下の取扱い事項を厳守すること。 |
| 技術的対策 | 『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。 |
| 安全取扱注意事項 | 換気の良い場所で取り扱うこと。 眼、皮膚又は衣類に付けないこと。 取扱い後はよく手を洗いうがいをする。 火気注意。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 主剤／硬化剤を多量に混合すると発熱し、アミン蒸気等が出ることもある。 |
| 接触回避 | 『10. 安定性及び反応性』を参照。 |
| 衛生対策 | 取扱い後はよく手を洗うこと。 |
| 保管 | |
| 安全な保管条件 | 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けないこと。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適当な傾斜をつけ、かつ、適当なためますを設けること。 保管場所には、危険物を貯蔵し又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。 『10. 安定性及び反応性』を参照。 保管温度：2～40℃ 日光から遮断すること。 容器を密閉して保管すること。 |
| 安全な容器包装材料 | 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 |

8. ばく露防止及び保護措置

| | 管理濃度 | 許容濃度（産衛学会） | 許容濃度（ACGIH） |
|---------------------|------|------------|-------------|
| ポリチオール（硬化剤としての名称） | — | — | — |
| ポリアミドアミン（硬化剤としての名称） | — | — | — |
| シリカ | — | — | — |
| 三級アミン（硬化剤としての名称） | — | — | — |

| | |
|---------|---|
| 設備対策 | 換気をしながらご使用ください。 本製品を貯蔵又は使用する設備は、眼洗浄施設及び安全シャワーを設置したほうがよい。 局所排気装置を設置する。 |
| 保護具 | |
| 呼吸器の保護具 | 情報なし |
| 手の保護具 | 保護手袋を着用すること。 |

9. 物理的及び化学的性質

| | |
|--------------|-----------------------------|
| 外観 | |
| 物理的状态 | 液体 |
| 形状 | 粘稠液 |
| 色 | 淡黄褐色 |
| 臭い | ポリチオール臭 |
| pH | データなし |
| 沸点、初留点及び沸騰範囲 | 情報なし |
| 引火点 | 145℃（クリーブランド開放式） |
| 燃焼又は爆発範囲 | |
| 下限 | データなし |
| 上限 | データなし |
| 比重（密度） | 1.15±0.05 g/cm ³ |
| 溶解度 | 水に不溶 |
| 自然発火温度 | 情報なし |

10. 安定性及び反応性

| | |
|------------|---|
| 反応性 | 主剤と反応する。 |
| 化学的安定性 | 通常の条件下では安定である。 |
| 危険有害反応可能性 | エポキシ樹脂類、イソシアネート類と反応しやすい。 空気中の炭酸ガスと反応して炭酸塩を形成することがある。 |
| 避けるべき条件 | データなし |
| 混触危険物質 | エポキシ樹脂類および酸化性物質、その他一般的な混触禁止物質との混触を避ける。 |
| 危険有害な分解生成物 | 燃焼などによりCO、SO等の有害ガスを発生する恐れがある。 |

11. 有害性情報

| | |
|-------------------|--|
| 急性毒性 | |
| 経口 | 混合物の急性毒性推定値が1059.467mg/kgのため急性毒性（経口）－区分4とした。 |
| 経皮 | 混合物の急性毒性推定値が1355.232mg/kgのため急性毒性（経皮）－区分4とした。 |
| 吸入 | データなしのため急性毒性（吸入：蒸気）－分類できないとした。 粉じん、ミストによる健康への有害性は判断できないため急性毒性（吸入：粉じん、ミスト）－分類できないとした。 |
| 皮膚腐食性及び皮膚刺激性 | 混合物の成分の皮膚腐食性及び皮膚刺激性－区分1の濃度合計が5%以上のため皮膚腐食性及び皮膚刺激性－区分1とした。 |
| 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 | 混合物の成分の眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性－区分1の濃度合計が3%以上のため眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性－区分1とした。 |
| 呼吸器感作性又は皮膚感作性 | データなしのため呼吸器感作性－分類できないとした。 分類結果は皮膚感作性－区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため皮膚感作性－分類できないとした。但し、各区分1の成分が0.1%以上1%未満含まれる。 |
| 生殖細胞変異原性 | 分類結果は生殖細胞変異原性－区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため生殖細胞変異原性－分類できないとした。 |
| 発がん性 | データなしのため発がん性－分類できないとした。 |
| 生殖毒性 | データなしのため生殖毒性－分類できないとした。 |
| 特定標的臓器毒性（単回ばく露） | 分類結果は特定標的臓器毒性（単回ばく露）－区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため特定標的臓器毒性（単回ばく露）－分類できないとした。 |
| 特定標的臓器毒性（反復ばく露） | 分類結果は特定標的臓器毒性（反復ばく露）－区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため特定標的臓器毒性（反復ばく露）－分類できないとした。 |

吸引性呼吸器有害性

40℃動粘性率が20.5mm²/sより大きいため吸引性呼吸器有害性一区分外とした。

12. 環境影響情報

水生環境有害性（急性）

分類結果は水生環境有害性（急性）一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため水生環境有害性（急性）一分類できないとした。

水生環境有害性（長期間）

分類結果は水生環境有害性（長期間）一区分外となるが、分類できない成分が90%以上含まれるため水生環境有害性（長期間）一分類できないとした。

生態毒性

情報なし

オゾン層への有害性

データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

内容物を使いきってから一般廃棄物として処理する。

押し出した内容物の硬化・乾燥物は普通ゴミ・可燃物（プラスチック・ゴム）として処理する。

汚染容器及び包装

チューブや少容量プラスチック容器製品で一般廃棄物とする場合は次のように分別し、回収または廃棄処分する。 普通ゴミ・可燃物（紙類、プラスチック・ゴム） 普通ゴミ・不燃物（金属、ガラス・陶磁器） 普通ゴミ・不燃物（雑物）

14. 輸送上の注意

国際規制

海上規制情報

IMOの規定に従う。

UN No.

2735

Proper Shipping Name

POLYAMINES, LIQUID, CORROSIVE, N.O.S.

Class

8

Packing Group

III

Marine Pollutant

Not applicable

Transport in bulk

Not applicable

according to MARPOL

73/78, Annex II, and the

IBC code

航空規制情報

ICAO／IATAの規定に従う。

UN No.

2735

Proper Shipping Name

POLYAMINES, LIQUID, CORROSIVE, N.O.S.

Class

8

Packing Group

III

国内規制

陸上規制

消防法、労働安全衛生法、毒物劇物取締法に該当する場合は、それぞれの該当法規に定められている運送方法に従うこと。

海上規制情報

船舶安全法の規定に従う。

国連番号

2735

品名

ポリアミン類（液体）（腐食性のもの）（他に品名が明示されているものを除く。）

国連分類

8

容器等級

III

海洋汚染物質

非該当

MARPOL 73/78 附属書II 及

非該当

びIBC コードによるばら積

み輸送される液体物質

航空規制情報

航空法の規定に従う。

国連番号

2735

| | |
|-------------|--|
| 品名 | ポリアミン類（液体）（腐食性のもの）（他に品名が明示されているものを除く。） |
| 国連分類 | 8 |
| 等級 | III |
| 特別の安全対策 | 『7. 取扱い及び保管上の注意』の記載に従うこと。 容器の漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。 |
| 緊急時応急措置指針番号 | 153 |

15. 適用法令

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物（法第57条第1項、施行令第18条第1号、第2号別表第9）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2第1号、第2号別表第9）

消防法

第4類 第三石油類（非水溶性）

外国為替及び外国貿易法

輸出貿易管理令別表第1の16の項

船舶安全法

腐食性物質（危規則第3条危険物告示別表第1）

航空法

腐食性物質（施行規則第194条危険物告示別表第1）

港則法

その他の危険物・腐食性物質（法第21条第2項、規則第12条、危険物の種類を定める告示別表）

通達 基発第477号

エポキシ樹脂の硬化剤による健康障害の防止について（ポリチオール、ポリアミドアミン、三級アミン）

16. その他の情報

連絡先

『1. 化学物質等及び会社情報』に記載。

参考文献

J I S Z 7252-2014 GHSに基づく化学物質等の分類方法
J I S Z 7253-2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル，作業場内の表示及び安全データシート（SDS）
経済産業省 事業者向けGHS分類ガイダンス（平成25年7月）
一般社団法人 日本化学工業協会GHS対応ガイドライン（2012年6月）

日本ケミカルデータベース(株) SDS作成システム「ロジスト」により作成。

その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取扱いには十分注意して下さい。

以前にお渡しした本製品の安全データシートをお持ちの方は破棄して下さい。

法改正や製品の改良によりSDSを改訂する場合がありますので、作成・改訂日が2年以上たっている場合は最新版であるかどうか御確認下さい。

SDSの伝達の経路：安全データシート（SDS）は原則として次の経路で最終取扱事業者様へ伝達されます。恐れ入りますが、未入手の場合のSDSの御請求や最新版の問い合わせは、販売ルートを通じてお申し出下さい。【メーカー⇒代理店⇒取扱い事業者】

前版からの変更点

「1. 化学品及び会社情報」に変更があります

「9. 物理的及び化学的性質」に変更があります